

(1) 北支時局收拾に關する外務省の意見

0007

REEL No. A-0212

0013

アジア歴史資料センター

1634

ニ徴シ明ナリ

ニ北支時局ノ收拾ハ中央政權トノ直接取引ニ依リ解決スルヲ要ス
西南其ノ他ノ地方政權既ニ崩壊シ南京政權ノ支那統一殆ト完成セ
ル今日、地方政權ヲ樹立シ之トノ話合ニ依リ事態ノ收拾ヲ計ラン
トスルカ如キハ單ニ一時ヲ糊塗スルニ過キスシテ禍根ヲ千載ニ殘
スモノナルハ「一切ノ地方的協定ハ總テ中央ノ許可ヲ得ルニ非レ
ハ有效ナラス」トノ南京政府ノ態度ニ徴スルモ將又過去ノ歴史ニ
徴スルモ明ナリ。

ニ北支時局收拾ノ目途

(甲) 蔣介石ハ十九日ノ聲明中ニ於テ「全國國民精力ノ最後ノ一滴迄モ傾到
シ國家存立ノ爲抗争スヘキノミ。一旦紛争ノ始マレル後和平ヲ求

外務省

SP. 305

219

0009

1634

極秘

北支時局收拾ニ關スル外務省ノ意見

(十二、七、三十、本日記)

一、地方政權ノ樹立ハ絕對不可ナリ
平津地方ニ於ケル第二十九軍ノ掃蕩一段落ヲ告ケタル上ハ同方面
ノ治安維持ノ爲過渡的措置トシテ一時「自治會」「治安維持會」
等ヲ結成シ之ト連絡ヲ保ツハ時局收拾上已ムヲ得サル所ナルヘキ
モ事件ノ所謂地方的解決ヲ計ル爲南京政權ト離レタル鴿的中間政
權(吳佩孚其ノ他舊軍閥ヲ擁立スルノ不可ナルハ勿論、所謂自治
運動ノ形式ニ依ル「故老」擔出シ亦不可ナリ第二十九軍ノ殘黨例
ヘハ張自忠擁立ノ如キモ今次派兵ノ目的カ全二十九軍膺懲ニ變更
シタル今日主義上反對ナリ)ノ不可ナルハ冀東、冀察政權ノ前例

外務省

SP. 305

218

0008

ムレハ我國家ノ屈從、我民族ノ全滅ヲ意味スル條件ヲ甘受セサル
ヘカラス。吾人ハ最後迄戦ヒ抜クノ外ナシ」トノ趣旨ヲ述ヘ又二
十九日「中國ハ戰場ニ於テ最後ノ勝利ヲ得サル限り日本ヲシテ支
那ノ權益ヲ尊重セシムル能ハス又名譽アル平和ト正義ヲモ確保ス
ルヲ得ス。全國民ハ舉國一致國力ト民力トヲ舉ケテ民族的抗戰ニ
邁進セサルヘカラス」トノ談話ヲ發表シ居レリ。
右蔣介石ノ態度ニ鑑ミ中央政權トノ直接取引ノ途ハ(1)此ノ際蔣政
權ヲ中央政權ト認メ武力ニ依ル城下ノ盟ヲ以テ蔣ヲシテ我方ノ希
望スル所ヲ其ノ儘承諾スルノ已ムナキニ立到ラシムルカ或ハ(2)我
軍ニ於テ中央軍擊破ノ結果、支那側内部ノ副作用トシテ蔣政權ノ
瓦解ヲ來サシメ、新ナル中央政權ノ招徠ヲ待ツテ之ト直接取引ヲ

外務省

ナスカニ者何レカヲ出テサルヘシ
四南京政權トノ直接取引ニ依ル北支時局收拾案
(1)南京政權ヲシテ梅津何應欽協定(及土肥原、秦德純協定)ヲ其ハ儘
承認セシム
(2)河北省(及察哈爾省)ノ治安ハ保安隊ヲ以テ之ヲ維持シ支那軍隊ハ一
切駐屯セシメサルコト
(1)以上ハ河北及察哈爾ノ兩省ヲシテ實質上塘沽停戰協定地域タ
ラシメムトスルモノナルカ中央軍ニ對シ全面的一大打撃ヲ加ヘ
更ニ進ンテ南京ヲモ陷ルルノ氣勢ヲ示サルル限リ蔣介石ハ之ヲ
受諾セサルヘシ(2)以上實現ノ上ハ滿洲國ノ南邊ハ實質上支那
北支時局收拾案ニ依ル北支時局收拾案ニ依ル北支時局收拾案ニ依ル
不明瞭ナル結果トナルハ此多岐ナル結果ニハ注意シタガハリ、

外務省

テ交渉ヲ開始スルヲ要スル處新ナル基礎ニ立ツ日支國交調整案ニ
關シテハ先般作成ノ外務省試案アリ。

外
務
省

12.7
SP. 305

223

0013

迄地域ヲ單位トシテ考察シ同地域ノ上ニ地方的特殊政權ヲ樹立ス
ルカ如キ考ヲ起ササルコト肝要ナリ。河北及察哈爾ノ兩省カ南京
トノ約諾ニ依リ保安隊ノ地區トナレル以上冀東政權及察哈爾盟ノ
如キ此等特殊地位ノ上ニ立ツ地方の政權ハ總テ解消スルヲ要ス。
(3)協定ノ履行監視ハ日本軍ニ於テ當ルヘキモ協定ニ關スル紛争ハ
直接南京政權トノ話合ニ依リ解決スルヲ要スルコト勿論ナリ。
五日支全面的國交調整問題

前記四ニ依リ北支時局ニ假令一段落ヲ着ケ得ルトスルモ蔣政權ニ
代ル親日的新中央政權ノ樹立セラレサル限り中南支ニ於ケル排日
的不祥事件ハ絶ヘサルモノト覺悟セサルヘカラス。日支關係ノ全
面的打開ノ爲ニハ舊套ニ捉ハレス、全然新ナル立場ニ立ツテ莫メ

外
務
省

12.7
SP. 305

222

0012

極秘

東亞局長

東亞局長第一號

北支時局收拾ニ關スル外務省ノ意見

(十二、七、三十、亞、一)



一、地方政權ノ樹立ハ絕對不可ナリ

平津地方ニ於ケル第二十九軍ノ掃蕩一段落ヲ告ケタル上ハ同方面ノ治安維持ノ爲過渡的措置トシテ一時「自治會」「治安維持會」等ヲ結成シ之ト連絡ヲ保ツハ時局收拾上已ムヲ得サル所ナルヘキモ事件ノ所謂地方的解決ヲ計ル爲南京政權ト離レタル鴉片中間政權(吳佩孚其ノ他舊軍閥ヲ擁立スルノ不可ナルハ勿論、所謂自治運動ノ形式ニ依ル「故老」擔出シ亦不可ナリ第二十九軍ノ殘黨例ヘハ張自忠擁立ノ如キモ今次派兵ノ目的カ全二十九軍膺懲ニ變更シタル今日主義上反對ナリ)ノ不可ナルハ冀東、冀察政權ノ前例

外務省

12.7

0014

ニ徴シ明ナリ

三、北支時局ノ收拾ハ中央政權トノ直接取引ニ依リ解決スルヲ要ス西南其ノ他ノ地方政權既ニ崩壞シ南京政權ノ支那統一殆ト完成セラル今日、地方政權ヲ樹立シ之トノ話合ニ依リ事態ヲ收拾ヲ計ラントスルカ如キハ單ニ一時ヲ糊塗スルニ過キスシテ禍根ヲ千載ニ殘スモノナルハ「一切ノ地方的協定ハ總テ中央ノ許可ヲ得ルニ非レハ有效ナラス」トノ南京政府ノ態度ニ徴スルモ將又過去ノ歴史ニ徴スルモ明ナリ。

三、北支時局收拾ノ目途

(四) 蔣介石ハ十九日ノ聲明中ニ於テ「全國國民精力ノ最後ノ一滴迄モ傾倒シ國家存立ノ爲抗爭スヘキノミ。一旦紛争ノ始マレル後和

外務省

12.7

0015

平ヲ求ムレハ我國家ノ屈從、我民族ノ全滅ヲ意味スル條件ヲ甘受セサルヘカラス。吾人ハ最後迄戦ヒ抜クノ外ナシトノ趣旨ヲ述ヘ又二十九日「中國ハ戰場ニ於テ最後ノ勝利ヲ得サル限り日本ヲシテ支那ノ權益ヲ尊重セシムル能ハス又名譽アル平和ト正義ヲモ確保スルヲ得ス。全國民ハ舉國一致國力ト民力トヲ擧ケテ民族的抗戰ニ邁進セサルヘカラス」トノ談話ヲ發表シ居レリ。右蔣介石ノ態度ニ鑑ミ中央政權トノ直接取引ノ途ハ(1)此ノ際蔣政權ヲ中央政權ト認メ武力ニ依ル城下ノ盟ヲ以テ蔣ヲシテ我方ノ希望スル所ヲ其ノ儘承諾スルノ已ムナキニ立到ラシムルカ或ハ(2)我軍ニ於テ中央軍擊破ノ結果、支那側内部ノ副作用トシテ蔣政權ノ瓦壞ヲ來サシメ、新ナル中央政權ノ招徠ヲ待ツテ之ト

外務省

12.7

0016

直接取引ヲナスカ二者何レカラ出テサルヘシ

(1)我方カ相當ノ面目ヲ保チ時局ヲ拾收スル途ハ前記(1)(2)以外ニナキモ、諸般ノ狀勢上右(1)(2)迄深入リスルヲ得ス、中途ニシテ停戦スルノ已ムナキニ立チ至リタル場合ニハ二十九軍(及中央軍)膺懲ノ目的ヲ達シタルニ依リ茲ニ撤兵スル旨聲明シ、潔ク且ツ手際良ク兵ヲ收メ、後記五ノ國交調整ニ依リ日支關係ノ明朗化ヲ計ルヘキナリ。

中途ニシテ停戦シ乍ラ、撤兵ニ關スル面目ヲ糊塗センカ爲北支ニ地方政權ヲ樹立スルカ如キコトアランカ、爾餘ノ支那全体ハ激烈ナル排日抗日トナリ、我方商權ノ失墜ハ勿論、澎湃タル排日ノ氣勢ハ再ヒ北支政權ヲ席捲シ第二第三ノ北支事變トナルコ

外務省

12.7

0017

ト必定ナリ。況ヤ後記五、國交調整ニ乘リ出サントスルモ北支政權存立スル限リ此ノ種南京トノ話ハ一切不可能トナリ結局北支新政權ノ樹立ハ日支關係及北支ヲ不明朗ナラシムル結果トナル次第ニテ、一時ヲ糊塗セントスル北支地方政權樹立ニハ絶對ニ反對ナリ。

四、南京政權トノ直接取引ニ依ル北支時局收拾案

(1) 南京政權ヲシテ梅津) 何應欽協定(及土肥原、秦德純協定)ヲ其ハ儘承認セシム

(2) 河北省(及察哈爾省)ノ治安ハ保安隊ヲ以テ之ヲ維持シ支那軍隊ハ一切駐屯セシメサルコト

(1) 以上ハ河北及察哈爾ノ兩省ヲシテ實質上塘沽停戰協定地域タ

外務省

12.7

0018

ラシメムトスルモノナルカ中央軍ニ對シ全面的の一大打撃ヲ加ヘ更ニ進ンテ南京ヲモ陷ルルノ氣勢ヲ示ササル限リ蔣介石ハ之ヲ受諾セサルヘシ

(2) 以上實現ノ上ハ滿洲國ノ南邊ハ實質上支那ヨリ隔離セラルルコトトナルヘキ處右非武裝地域ニ對シテハ飽迄地域ヲ單位トシテ考察シ同地域ノ上ニ地方的特殊政權ヲ樹立スルカ如キ考ヲ起ササルコト肝要ナリ。河北及察哈爾ノ兩省カ南京トノ約諾ニ依リ保安隊ノ地區トナレル以上冀東政權及察哈爾盟ノ如キ此等特殊地位ノ上ニ立ツ地方的政權ハ總テ之ヲ解消スルヲ要ス。

(3) 協定ノ履行監視ハ日本軍ニ於テ當ルヘキモ協定ニ關スル紛争ハ直接南京政權トノ話合ニ依リ解決スルヲ要スルコト勿論ナ

外務省

12.7

0019

秘

A1.10.30

第一案

時局拾收案

「本件ハ本來地方の事件ニシテ現ニ地方當局間ニ話合成リ目下實施方監視中ノモノナリ我方ノ南京ニ要求スルハ其ノ邪魔ヲセサルコトナリ從テ南京ノ回答ハ全然的外レナリトノ趣旨ヲ聲明シ日本ハ當初ノ方針通冀察側カ解決條件ヲ満足ニ實行セハ右ヲ見極メタル上ニテ自主的ニ撤兵スヘシ但シ其ノ間又ハ撤兵後南京側カ邪魔立セハ容赦セストノ方針ニテ宋ノ條件履行略完了後適當ノ時期ニ手際ヨク撤兵ス」

以上ハ政府當初ノ方針ニモ反セス大義名分モ立チ支那側モ決シテ我方カ撤退シタリトテノコノ河北へ這入り込ムカ如キコトハ萬々無カルヘク泥沼ニ足ヲ踏込ムカ如キ第二案ニ比シ遙カニ得策ニ

外務省

12.7

0021

リ

五。日支全面的國交調整問題

前記四ニ依リ北支時局ニ假令一段落ヲ着ケ得ルトスルモ蔣政權ニ代ル親日的新中央政權ノ樹立セラレサル限り中南支ニ於ケル排日の不諒事件ハ絶ヘサルモノト覺悟セサルヘカラス。日支關係ノ全面的打開ノ爲ニハ舊套ニ捉ハレヌ全然新ナル立場ニ至ツテ更メテ交渉ヲ開始スルヲ要スル處新ナル基礎ニ立ツ日支國交調整案ニ關シテハ先般作成ノ外務省試案アリ

外務省

12.7

0020

テ但シ此案ニハ軍部側ニ多大ノ反對アルヘシ其處ヲ押切ルカ政治家也

ニ第二案

支那ハ怪シカラス誠意ナシトテ全面的戦争ヲ覺悟スル案也但シコレハ

(1) 宋哲元カ殆ト云フコトヲ聞イタ今日南京カ怪シカラヌトテ廿九軍迄殿ク譯ニハ行カサルヘシ

(2) サレハトテ廿九軍ヲ後ニ置イテ戦争モ出來サルヘシ

(3) 全面的戦争トナルトセハ勢持久戦トナルヘシ、カクナレハ日本ノ國力カ持耐ヘルヤ心配ナリ諸外國特ニ英米露ノ動向相當恐ルヘキモノアルコト當然ナリ在支帝國商權喪失位ノ話ニ非ス

外務省

12.7

0022

結局焦土外交ヲ覺悟セサルヘカラス、モトモト本案ヲ可ナリトスル論者ノ論據ハ

(1) コレテ引下ツテハ國民ニ申譯ナシ

(2) コレテ引下ツテハ支那ハ益々ツケ上リ排日侮日増長スヘシ

(3) 運ヨクハ支那ハ恐レヲ爲シ干戈ヲ交ヘスシテ屁古タルヘシトノ諸點ニアルヘキ處右(1)(2)ハ尤モナルモサリトテ之カ爲日本帝國ノ運命ヲ不知ノ泥沼ニ投ケ込ムコトト較フレハ九牛ノ一毛ナリ、日支國交ノ改善ハ和戦何レノ方法ニヨルトスルモ其ノ内何レ時期熟スヘク今日ハ決シテ其ノ期ニ非ルナリ

外務省

12.7

0023

極秘

(一ニハ馬東原一)

外務大臣ニ於テ海軍大臣ト會見ノ上ニ以下ノ事項ニ付充分協議シ
意見ノ合致ヲ見タル上ニテ以下ノ實行ニ移ル

ニ外務大臣ヨリ陸軍大臣ニ今次事變ノ收拾ニ關シ次ノ如ク示唆ス

(1) 時局收拾ノ條件

(1) 永定河左岸以東地區ヲ非武装地帯トシ右地域内ニハ支那軍ハ

駐屯セサルモノトス

右地域内ノ治安ハ保安隊ヲ以テ維持ス(已ムヲ得サル場合ニ
ハ非武装地帯設定ノ期限ヲ三年乃至五年トス)

駐ニ必要ニ應ジ我方駐屯軍ノ兵數モ舊年増強前ノ兵數ニ縮少
スルノ意向アル旨表示ス

外務省

SP. 305

224

0024

消セラレタルモノトス。

駐ニ増設停戦協定、梅津何應欽協定及土肥原廉徳協定ハ解
消セラレタルモノトス。
(2) 蘇察、冀東ヲ解消シ南京政府ニ於テ直接右地域ノ行政ヲ行フ
コトニ同意ス

但シ右地域ノ行政首腦者ハ例ヘハ何應欽ノ如キ有力者ニシテ
相當範圍ノ權限ヲ有スルモノタルコトヲ希望ス(必要アリ
ハ我方ハ政治行政等ニ對シ不當ニ干渉スルカ如キコトナキ旨
強調シ蓋支ナシ)

駐ニ前記(1)非武装地帯ノ設定ハ事實上増設停戦協定ノ擴張ナ
ルヲ以テ南京トシテハ最も苦痛且ツ受諾ヲ困難トスル所
ナルニ鑑ミ何應欽六項目ノ如キ政權ノ樹立ヲ圖執スルニ

外務省

SP. 305

225

0025

於テハ本件停戦協定成立ノ意ナカルヘシ
駐ニ北支五省ニ於ケル經濟合作ノ趣旨ヲ協定ス、但シ右ハ眞
支平等ノ立場ニ立タル合辦其他ニ依ル合作タルコト勿論
ナリ

（四）右條件切出ノ方法

右條件ニ依ル停戦協定ハ支那側ヨリ切リ出サシムル機外新舊領
ニ於テ工作ス

又右ニユヨル停戦成立ノ上ハ引續キ從來ノ行態ニ提ハレサル日支國
交調整ニ關スル交渉ヲ行フモノトス

外務省

SP. 305

226

0026

極秘

時局收拾ノ時期ト方法

（一）上海附近ヨリ支那軍ヲ掃蕩シタル機會ニ於テ時局ヲ收拾スル案

（イ）支那軍ヲ大體上海停戦協定區域外ニ驅逐シ（同時ニ浦東側モ掃
蕩ス）上海租界ノ安全確保セラレタル機會ニ、將來ニ於ケル上

海租界ノ安全確保問題ニ付列國側ト話合ヲ開始シ、右話合ヲ契
機トシ列國ヲシテ南京ト接洽セシメ、此レヲ切掛けトシテ日支
間ニ時局收拾ノ交渉ニ入ル機會ヲ作ルモノトス

（ロ）對支作戰カ南京政府ヲシテ反省セシムルヲ目的トシ居ルモノナ
ルニ依リ現状ニ於テハ上海方面ノ停戦問題ヲ北支ト切り離シ交
渉スルコトハ考慮シ得ス

（三）事態永引ク場合ノ措置

外務省

11.9

0027

は(一)
(右一)ノ措置ヲ取ルモ支那側ニ於テ交渉ニ應スルノ氣配ヲ示サ
サル場合ニハ事態永引クモノト考ヘサルヲ得ス)

(1) 上海方面

上海周邊(出來得レハ自立シ得ル地域例ヘハ劉河、)崑山、青
浦松江ノ線、或ハ、常熟、蘇州、嘉興、杭州ノ線ノ如シ)ヲ確
保シ南京ト海口間ノ連絡ヲ絶チ、我方確保ノ地域ハ治安維持ニ
付自立シ得ル組織ヲ取ルモノトス

(2) 北支方面

(1) 治安維持

(1) 治安維持ニ必要ナル組織ヲ確立ス。但シ既定ノ方針ニ準據
シ支那側トノ話合ニ依リ時局收拾スル場合ヲモ考慮シ、

外務省

12.9

0028

後ニ至リ動カシ得サルカ如キ組織ヲ形成セサルコトニ留意
ス。

(2) 治安維持ノ爲必要ナル經費ノ調達ハ別紙ニ依ル

(2) 經濟及交通

(1) 經濟開發ハ、北支占領地域ノ治安維持ニ必要ナル經費ノ支
辨竝ニ民衆ノ安居樂業ニ必要ナル物資ノ開發ヲ主タル目的
トス。但シ我軍占領期間内暫行の措置ナルコトヲ明ナラシ
ムルト共ニ、努メテ國際的紛糾ヲ避クルコトニ留意ス
(其ノ結果綿花其他ノ農業、鹽業、礦業資源ノ開發等ヲ行
フ。)

(2) 右目的ノ爲事變中ニ限り民衆ノ生活必需品ノ關稅引下等緊

外務省

0029

急措置ヲ取ルコトアルヘシ（詳細別紙②）
ハ鐵道及通信機關ノ建設ハ事變中ニ於ケル軍事行動ノ必要ニ
應シ考慮ス。

外務省

12.9

0030

REEL No. A-0212

0025

アジア歴史資料センター